

みんなの笑顔がまぶしい1日 島民総出の地域イベント 平成24年度・長島親睦大運動会

投稿

5月27日・日曜日、長島島民にとっては忙しい磯時期の合間をぬって、平成24年度長島親睦大運動会が開



親子対抗リレー



元気に走る保育所の子どもたち

催されました。文字通り島民総出のこのイベントは、長島青年会と長島婦人会の企画運営による長島島民が最も待ち望むイベントである。郷ノ浦大橋の近くの発着所から就航している三島の競技で大盛り上がりである。

三島小学校長島分校のグランドを借りて、島ならではの競技で大盛り上がりである。

島への定期船「フェリーみしま」に乗って約40分で行ける長島は、面積0.51km²、外周約160km、人口約160人の小さな島である。

魚釣り「大物釣ったぞ!」宝釣り「今日一番のお宝は?」ウニ割り「普通は鈴ですが、トゲがついてウニで割る」100m走「負けないぞー!」親子対抗リレー「高学年になると親はもう、追いつけない!」アイディア満載の仮装行列「ある意味、運動会の一歩の楽しみ。」島民を2チームに分けての綱引き「伝統の一戦。」早食い競争「これは無理やろ!」

土砂災害から身を守る! 土砂災害から身を守る! 土砂災害から身を守る!

5月の火災 発生3件 累計17件 建物火災1件 その他火災2件

5月の救急 出動119件 累計656件 急病68件 一般負傷19件 交通事故5件 自損行為3件 火災1件 その他(転院等)23件

火災・救急メモ ①土砂災害から身を守る ②老朽化消火器の適切な取り扱いについて

腐食、老朽化の進んだ消火器を操作すると、消火器が破裂し事故につながる恐れがあります。腐食、老朽化の進んだ消火器は危険ですので、消火器を取り扱っている消防設備業者に連絡して回収してもらいましょう。*詳しくは彦根市消防本部予防課(45-30037)まで

掘割を行くドンコ舟

名曲「この道」「からたちの花」等の作詞家、北原白秋のふりかへり

柳川(福岡県) 市山 節子

川風にゆれる柳に迎えられ詩碑建つ岸より舟のり込む

白秋の詩(うた)が聴こえてくるようなからたちが咲く小さな垣根

赤レンガの倉庫がならぶ掘割も柳川下りのメインのひとつ

石の河童が思いおもいのポーズとりカメラに笑顔とらるるを待つ

橋下をくぐりゆく度ひらけゆくアカシアのみどり花しようぶの黄

潮どめの難所の水門あやつれる勝負師のごとき船頭の顔

ひ孫を抱っこする婦人

お父さん、お母さんを応援する子供たち。島の海と同じように、みんなが笑顔がともまぶしい一日でした。(はるきち)

7月17日に第115回例会
島嶼子ども劇場

「21世紀を生きた子どもとおとなへ」と豊かな文化と仲間の中で楽しい子育てを!!「島嶼子ども劇場」の第115回例会が7月17日午後7時から、芦辺町、つばさで開かれる。県子ども舞台芸術祭として開かれる例会には、「くわえはべつとステージ、人形芝居ひつじのキャンパニー」による「あなたがうまれるまで」と「きらいきらい、ちよっとスキ」が上演される。いき子ども劇場は、生の舞台芸術との出会いと、子どもたち自身がくりだす活動を通して、心や感性、創造性を育み、子どもたちが人として豊かに成長していくことを願い、活動をする非営利団体で、昨年県民表彰を受けている。

問い合わせなど詳しくは郷ノ浦町本村、同子ども劇場事務局(開局日・水、土曜日午前10時から午後1時、電話・FAX47-4621)へ。

白秋の「思ひ出」の中に「数知れぬ掘割のほひには、日ににすたれてゆく ふるい封建時代の白壁が今なお懐かしい影を映す」と記しています。白秋の生家近くの白壁のたたずまいも少しはありますが封建時代の白壁は、すでにないとの事でした。

城下町らしく盾などの武具を作った堅い気質のムク、ケヤキ、エノキの古木が茂っているうっそうとした樹間を抜けると、白秋が旧制伝習館中学に通った白秋道路が見えました。

途中の舟着場には、大きな建物の結婚式場があり、近くの神社で式を挙げた花嫁、花婿がドンコ舟に揺られて披露宴に臨むとの事でした。

沿線には権一雄、長谷健、白秋等の文学碑も多く、掘割には、たつぷりとした水が静かに流れ、紫の大きなアジサイや、花しようぶ等も咲き、川岸の柳の並木がゆれていました。ドンコ舟から両岸の風情のある掘割風景を眺めながら、この景観を保って欲しいと思いました。



訂正
前号4面の夫婦盃で「終(ついに)とあるのは、「俱(とも)に」の誤りでした。お詫びして訂正します。

大切なのは、一人ひとりが、新しい「緑」、美しい「青」にめざめること
6月は「環境月間」

現在の社会は、地球の自然・環境を資源として築かれています。その結果、森林は伐採され、石油など化石燃料の消費などによる温暖化がすすみ、海面上昇により沈みゆく島や土地、消えゆく命があるなかで、様々な資源、エネルギーをいまだに奪い合い、深刻な事態に陥っている現実が存在し、特に、東日本大震災の原発事故の発生で、原子力の見えない影響に疑心暗鬼となり、それまで良好だったコミュニケーションが奪われてしまう事態も発生しています。環境の日、環境月間を契機に、「未来の生命」について考え、「自然・生命の和、循環」に根差したそれぞれの場でできる行動、活動が強く望まれ、今この瞬間からも求められ、迫られています。